

北に育つ

北海道稚内養護学校
学校便り
平成29年10月6日発行
第4号
発行者 首藤 啓美子

スペシャル サーカス
稚内Special Circusがやってくる！
～北海道 Special プロジェクト in 稚内～

北海道稚内養護学校 教頭 高木 美穂

みなさんは、「サーカス」と言えば、どんなことを思い出しますか？ ピエロ、白いライオン、空中ブランコ？ 実は、11月21日（火）に、稚内養護学校に「サーカス」がやってきます！と、言っても、サーカス小屋やサーカス団がくるわけではありません。

今、我が国では、2020年（平成32年）に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることや、新しい学習指導要領がスタートすることを契機に、スポーツのみならず、教育・文化も含めた特別支援学校全体の活動の充実を図ることが求められています。その一環として、今年度、スポーツ庁委託事業「Special プロジェクト 2020 体制整備事業」として「北海道 Special プロジェクト」が展開される運びとなり、稚内養護学校が会場の一つに選ばれました。

「北海道 Special プロジェクト」では、子供たちがプロのスポーツ選手やあるいはプロの芸術家等による「ほんもの」のスポーツや芸術に触れ感動する機会や、障がいの有無等を超えて誰もが心を通い合う機会を創り、地域全体が笑顔と感動を共有する「地域の共生社会の拠点づくり」となることをめざしています。稚内養護学校を会場に行われる「稚内 Special サーカス」では、サーカスには欠かせない演目のジャグリングや迫力満点のBMX（競技用自転車）での華麗な技を披露していただき、交流校のお友達や地域の方々と共に「ほんもの」に触れ合い、笑顔と感動を共有したいと思っています。

保護者の皆様、地域の皆様、当日はたくさんのご来場をお待ちしています。みんなで一足先に、オリパラに匹敵する感動を味わいましょう。



社会体験学習(中学部)の様子

8月29日（火）～31日（木）の3日間、中学部の社会体験学習を行いました。今年度は初日に稚内信用金庫本店での職場見学、2・3日目に各実習先での体験学習という日程で行いました。

初日は、稚内駅からすぐの場所にある、稚内信用金庫本店で見学をしました。まずは大人の挨拶として、みんなで名刺交換を行いました。初めてで少し緊張していましたが、両手でしっかりと持ち、丁寧に渡していました。また、お札の数を教えてもらい、みんなで挑戦しました。大人の働く姿を見たり、普段見ることのできない銀行の裏側を見学したりと、生徒達はもちろん教員も勉強になった1日でした。



2・3日目は、中央水産、そえじま工具、はまなす学園、第一木馬館、ふれあい公園で お世話になりました。学校での作業学習で学んだことを活かし、どの生徒たちも自分に与えられた役割を一生懸命取り組み、無事に終えることができました。最終日を迎え、仕事をやり遂げた生徒たちの表情は、達成感に満ちあふれた表情をしていました。



体験学習後の報告会では、自分の活動をポスターでまとめて発表したり、映像を見たり、実際の作業風景を再現したりと、自分以外の発表を興味津々で聞いていました。生徒達にとっては短い期間でしたが、“働く”という貴重な体験ができ、とてもいい機会となりました。社会体験学習での経験を今後の学習活動に活かし、一人ひとりの成長を願っています。

（文責：市川）

中学部見学旅行！！

中学部2、3年生4名は、9月12日（火）～9月15日（土）札幌へ行ってきました。

初日正午、学校で先生方に、駅では保護者や寄宿舍指導員の方々に見送られ出発。予報どおり雨が降りそそぎ、外景色は雨、雨、雨。札幌に到着してからも降り止まず、雨を回避するためにできる限り地下道を歩き、一部雨に当たりましたが、無事に旅館に到着できました。到着してからは、あっという間に就寝時間となってしまう、一日が終了。

2日目、午前は札幌市民防災センターで地震、暴風体験や消火体験を行い、防災について学びました。午後は北海道警察で警察の歴史を学び、司令室の見学、白バイの乗車体験をしました。その後、市電、ロープウェイに乗り、山道登山しながら山頂を目指す予定でしたが、急な雨に見舞われたため、登山をミニケーブルに切り替え、藻岩山展望台（山頂）へ向かいました。足早でしたが、景色を眺めたり写真を撮影することはできましたが、旅行団の空気は重く、水分補給しながら下山を待っていたら、奇跡の晴れ間が訪れ、虹もかかり、最終的には最高の景色を堪能することができました。

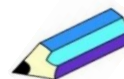
3日目、午前は青少年科学館でサイエンスショーを見たり、スーパードリームライド（宇宙冒険の疑似体験）に乗りました。午後は白い恋人パークで、オリジナルクッキーづくりを体験してきました。

最終日、JRタワーT38から札幌を一望してから、正午過ぎのJRに乗り、無事に稚内へ帰ってきました。保護者や先生、寄宿舍指導員に出迎えられ、ほっとした表情や様子を見ると、この数日間かなり頑張っていたことが伺えました。見学旅行では、普段の学習（金銭管理、買い物、集団行動等々）の成果を総合的に発揮する良い機会となり、また生徒達のたくましさや成長を感じることができた4日間でした。

（文責：平川）



地域と共に学ぶ～夏季研修会より～



去る7月28日、本校を会場として、北海道特別支援教育研究協議会の全道研修会が行われました。「地域とすすめるインクルーシブ教育システムの構築～夢をもって、自分らしく歩み続ける子どもたちのために～」という大会主題のもと、全道各地から160名を超える参加者にお集まりいただき、特別支援教育における各校の実践や課題の交流や、ICTの活用など最新の知見を学ぶと共に、保護者や福祉施設職員など、地域との幅広いつながりを改めて感じさせられる研修会となりました。

全体講演会の講師として、2016年リオ・パラリンピック自転車競技の銀メダリストである藤田征樹氏（稚内市出身）にお越しいただきました。自身の生い立ちから中途障害を負うエピソードに加え、競技スポーツにおける第一線での活躍に至るまでの軌跡を自身の経験から、夢や希望、情熱が現実を与える力、相手への敬意、さらにはインクルーシブ教育など多角的な視点から講演をいただき、参加者に勇気と感動を与えるものとなりました。

昼食時には、稚内市立声問小学校の児童によるよっちょれや南中ソーラン連による南中ソーランの演舞をアトラクションとして開催し、地域の伝統や文化に触れるひとときとなりました。

午後の部会や講座では、日頃の教育活動を中心とした協議や事例検討など活発で実践的な交流の場となりました。

特別支援教育に関わる動向や取り巻く環境の変化に柔軟に対応しつつ、今後の教育活動のさらなる充実につながる研修会となりました。この場をお借りして、ご報告とお礼にかえさせていただきます。ありがとうございました。

（文責：杉本）



↑ 藤田氏による講演会より



↑ 講座1
「自閉症の理解と支援」より

11月の行事予定

3日（金）	文化の日
7日（火）	全体外出（舎）
10日（金）	増幌小交流及び共同学習（小）
17日（金）	声問小交流及び共同学習（小）
21日（火）	稚内 Special Circus
23日（木）	勤労感謝の日
24日（金）	夏季休業日